秋田県立ゆり支援学校

ゆり地域支援だより

令和5年12月21日発行　第3号　秋田県立ゆり支援学校　地域支援部

特別支援学校の授業紹介 ～本校での授業実践～

【小学部　生活単元学習　「チャレンジ８～たたみ名人になって２年生をたすけよう～」】

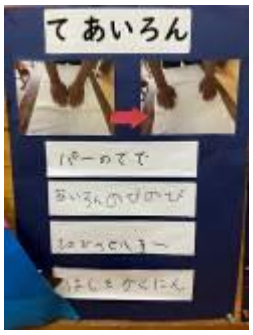
小学部４年生では、昨年度より寄宿舎指導員をゲストティーチャーに招き、生活に関わること（入浴、雑巾絞り、テーブル拭き、洋服畳みなど）の学習を行っています。

昨年度の「畳み教室」の内容を発展的に取り上げ、２年生に畳み方を教えに行くために「フェイスタオルの丁寧な畳み方」を学びました。寄宿舎指導員の先生より「はしとはしピタ」「手アイロン」のキーワードをいただき、『たたみ名人』になるために畳む練習をがんばりました。また、２年生に分かりやすく教えるためにはどうしたらよいかをみんなで話し合い、タオルの畳み方を教えに行きました。それぞれ自分が担当する係に取り組み、タオルの畳み方を演示したり、説明したりすることができました。

「私はたたみ名人だから！」と着替えや給食の時間に畳み方を意識したり、家庭での手伝いにも意欲的に取り組んだりするようになっています。

「はしをそろえるよ」「てアイロンしてね」と２年生に優しく教えました。

キーワードを具体的にイメージして意識できるように写真と文字で視覚化しています。



畳み方が上達するまでの段階を表にして、顔写真で今のレベルを掲示し、さらに意欲アップ！

【中学部１年　職業･家庭科　「さがそう！先輩のいいところ」】

中学部の職業・家庭科では、見たり、聞いたり、体験したりしながら、将来、素敵な社会人になるために必要な力を学んでいます。

本単元では、高等部の作業学習や校内実習を見学し、先輩のいいところを見付けて自分たちとの違いに気付き、今の自分を振り返って目標を立てました。見学前に本校の進路指導主事から校内実習のねらいや卒業までに必要な力の話を聞いたり、見学時の様子を再度映像を観ながら振り返ったりすることで、具体的な目標を立てることができました。

先輩のいいところ	自分が今がんばりたいと思ったところ
・あいさつがいい（挨拶） ・作業中私語がなかった。（集中力） ・報告の姿勢がよかった。（報告） ・話し方がうまい。（言葉遣い） ・「はい、わかりました」と返事をしている（素直な態度）	・報告のときにいい姿勢で話そうと思った。 ・言葉遣いに気を付けようと思った。 ・作業中私語をしないようにがんばりたい。 ・次の担当の人に迷惑がかからないように、自分の役割をしっかりやろうと思った。 ・すぐに「面倒くさい」と言わない。

授業づくり相談お受けします！

特別支援学級での授業づくり、特別な支援が必要なお子さんに配慮した学習や教材･教具の工夫など、お気軽にご相談ください。

特別支援教育研修会より

「当事者・家族の語りから」
～発達障害支援の視点をもって～

秋田県発達障害者支援センター　ふきのとう秋田
相談員（社会福祉士・精神保健福祉士）
石橋　知子氏

◎支援者として大切にしたい視点　私たちができることは「環境調整」「適応できる（理解できる）時間を増やすこと」

①評価から支援を検討する。特性を理解した上での個別化：子どもの見ている視点からのアプローチ
②行動は障害特性と環境要因の相互作用によって生じる。：好ましくない行動の代わりにとってほしい行動をイメージ（本人の現状に即したもの）
③「困った子」ではなく「困っている子」ととらえる。：共感から関係性を作る
④思春期は周囲の大人がチームとなって一緒に親子関係を支える。本人の居場所（安心感）を保証する。：課題だけでなく、できている行動も具体的に共有
⑤思春期は本人の強い興味関心と程よく付き合うための経験を試行錯誤できるといい。強い興味関心が次のステージを広げ、生き抜くための核を育む。：体験が実感となり選択肢を増やす

【質疑応答から】

Q：長期的、継続的な支援につなげるために気を付けたことは？

A：考えた末の相談の電話と察するため、電話をくれたことに対してお礼を伝える。次につながるような言葉掛けと電話相談のメリットを伝え、担当が代わっても申し送りをして長期的につながれるようにしている。

Q：子どもとの関係が悪循環になってしまっている保護者が、考え方を転換できるようにするために大切なこととは？

A：保護者はその先に不安を抱えている場合が多いため、情報の提供をして当事者が将来のことを選択できるように、いくつか選択肢を保護者に知らせ、子どもの姿をイメージできるようにしている。また、似たような困り感をもつ親同士で話し合える場を作り、「同じような状況が他にもある、今の状況はそれほど悪くない」という気持ちをもてるようにしている。

～これいいね　子どものわかる・できるにつながる指導、支援の実践から～

★目印の活用～視覚化

本校小学部では、体育や集会等で列の目印や一人一人の立ち位置の目安に「コートマーカー」を使っています。児童が自分で気付いて列に並んだり、場所を意識して活動したりすることができます。

★タイミングをそろえる～注意・集中の促し

小・中学校の参観から

活動の始まりや途中で切り替えが必要な場面での、子どもが注目できるような言葉掛け。「手を止めて見ましょう」「三つ話します」など聞くタイミングをそろえる工夫がたくさんありました。キーワードになる言葉や資料のページを板書して伝える工夫もありました。

★事前の約束確認～ルールの確立

園の参観から

椅子とりゲームやリレー遊び、制作活動など子供たちが盛り上がる活動の前に約束やルール、道具の使い方などを確認。「○○のときは△△する」と実際に見せて伝えたり、具体的な言葉（イメージできる言葉）を使ったりして約束を共有していました。

★スケジュールの明確化～視覚的に見通す

特別支援学級の参観から

一日の予定や授業の活動内容と流れ、準備や片付けの手順などが掲示や板書で示されていました。時間や活動の流れは、上から下へ、左から右へ示すと、見やすく使いやすいです。

先生方のお悩みや疑問にお答えします。ご連絡、お待ちしています。

秋田県立ゆり支援学校　地域支援部

ＴＥＬ　：0184-27-2631　E-mail: yuri-s@akita-pref.ed.jp